

項目番号	1	担当	成人サービス
1 評価対象事業			基本方針 1
外国語資料について、探しやすく、使いやすい書架づくりに取り組みます			施策の方向性 (1)
			取組項目・内容 ①ア
2 事業の背景と概要			
平成29年度に中央図書館、平成30年度にひばりが丘図書館に設置した「英語多読コーナー」の資料や英語をはじめとする外国語資料の充実を図り、書架の整理を行うことにより、図書館利用者の外国語資料や英語学習に対する興味感心を広げ、利用しやすい環境づくりに努める。			
3 事業の取組		4 事業の成果	
①英語多読資料 英語多読資料を設置してから8年経過したが、開設当初から図書への需要は少なくない。当該資料に詳しい機関に相談しながら図書館の蔵書を増やし、利用しやすい工夫をするなど、英語多読資料の利用促進に努める。 ②外国語資料 外国語資料を選定し購入する際に課題となることを整理し、購入する際の方針を協議する。		①NP0多言語多読との打合せを行い、現在の英語多読資料のラインナップに加えるべき英語多読シリーズのアドバイスを受けた。それを踏まえ、新規購入したシリーズ資料とNP0多言語多読からの寄贈資料、計639冊の図書の受入を行った。 増えた蔵書については、柳沢図書館には英語多読資料コーナーを新設して設置し、従来の合本スタイルをクリアケースに収納する装備に変更した。 更に、図書館ホームページで「英語多読(Tadoku)」ページを新設し、英語多読の楽しみ方を紹介した。 ②今年度は、リクエスト資料と近年におけるブッカー賞などの文学賞受賞作、計68冊の新規受入を行った。	
5 図書館（1次）評価			
①令和7年度事業評価	②評価指標	③特記事項	
A	S：予定通り実施（達成）できた A：予定通り実施（達成）したが課題もある B：実施状況に課題があり、改善が必要である C：取組を実施できなかった	令和6年9月に発行した「西東京市図書館だより」では、「英語でたのしむ読書」と題して、英語で書かれた本や雑誌、新聞が図書館で利用できることを紹介し、英語でたのしむ読書の提案を行った。	
6 課題		7 今後の方向性	
①蔵書を紹介する方法を検討する。 ②今年度購入した外国語資料の貸出動向にも注視しながら、継続して蔵書の購入を検討する。		☒継続 ☐見直し（☐改善・☐拡充・☐縮小）☐休止・廃止 継続して事業を実施する。	
8 図書館協議会（2次）評価			

項目番号	2	担当	多文化
1 評価対象事業			基本方針 2
日本語を母語としない市民のニーズの把握に努め、関係部署や地域で活動する団体等と連携して、多文化サービスの取組を進めます			方向 (1)
			施策 ②アイ
2 事業の背景と概要			
図書館に日本語学習コーナーを開設してから6年が経過した。コーナーには日本語学習資料、日本のことを知るための資料、日本語レベル別よみものを設置しているが、中央図書館のコーナーについて、各国のパンフレット類や多言語生活案内資料を収集して蔵書にできるかを検討する。 やさしい日本語による動画を含む利用案内を充実させる。 多言語によるおはなし会を継続実施する。			
3 事業の取組		4 事業の成果	
①市内在住が多い5か国（中国、韓国、ベトナム、ネパール、フィリピン）の大使館へ、各国を紹介したパンフレットの寄贈を依頼。更に、市内で配布している多言語リーフレットを収集して、館内で閲覧できるように整理。 ②やさしい日本語による図書館紹介について検討。 ③「いろいろなことばでたのしむおはなし会」実施。 ④「親子でたのしむえいごのおはなし会」実施。 ⑤講座「やさしいにほんごワークショップ」実施。		①市やNPO等が発行し、市内で配布している生活情報案内は中央図書館で閲覧できるように整理したが、大使館からの寄贈資料は蔵書化に至らなかったため、コーナーのリニューアルを行わなかった。 ②やさしい日本語による図書館紹介動画第3弾『かり方・かえし方』を作成して12月より公開し、54回視聴があった。 ③3回実施、参加総数：51人（英語、中国語、アラビア語、スペイン語、カタルーニャ語） ④1回実施、参加人数：27人 ⑤講座「やさしいにほんごワークショップ」実施 参加人数：11人（田無公民館実施） 参加人数：18人（共催：芝久保日本語教室） 講師：NPO多言語多読 →日本語学習者9人の参加があった。	
5 自己評価			
①令和7年度事業評価	②評価指標	③特記事項	
A	S：予定通り実施（達成）できた A：予定通り実施（達成）したが課題もある B：実施状況に課題があり、改善が必要である C：取組を実施できなかった	①寄贈資料の蔵書化に至らなかったが、在住住民の関心を得る方法として、展示「Youはどこから西東京市へ？」を実施し、外国籍住民の出身国に関する図書を紹介した。	
6 課題		7 今後の方向性	
②簡易な利用案内の作成について検討する。 ⑤日本語学習者に日本語多読資料等を紹介するため、日本語教室や日本語ボランティアの方、その他関係者への案内を定期的に行い、資料を継続して利用してもらう機会につなげる。		☒継続 ☐見直し（☐改善・☐拡充・☐縮小）☐休止・廃止 継続して事業を実施する。	
8 図書館協議会（2次）評価			

項目番号	3	担当	成人、地域・行政資料、レファレンス、ハンディキャップ
1 評価対象事業		基本方針	2
市民の自主的な学びを支援するための講演会・講座、展示等を実施し、市民の調査・研究を支援します		方向	(2)
		施策	②ア
2 事業の背景と概要			
データベース普及のためのイベントを開催する。 幅広い年代を対象とした、図書館の資料や情報を活用するための講演会を開催する。			
3 事業の取組		4 事業の成果	
①地域を知る講演会の実施（地域・行政） ②市に縁のある文化人による講演会の実施（地域・行政） ③市内盲導犬ユーザーの方の講演会の実施（ハンディキャップ） ④ハンディキャップサービス資料を知るイベントの実施（ハンディキャップ） ⑤データベース体験イベントの実施（レファレンス） ⑥一般向け講演会の実施（成人）		詳細は別紙参照 各アンケートにて「学びの支援に繋がった」とくみ取れる回答が合計平均84%であった他、自由記入欄でも新たな学びがあった・関心が広がった旨の回答があり、市民の自主的な学びを支援するための場を提供することができた。	
5 自己評価			
①令和7年度事業評価	②評価指標	③-1 令和7年度実績値	③-2 令和6年度実績値
S	参加者にアンケートを実施。「学びの支援に繋がった」とくみ取れる項目にてその満足度を確認する。 S：80%以上 A：50%以上 B：50%未満 C：取組を実施できなかった	別紙参照	「誕生日新聞」 評価：「また調べものをするときに、図書館データベースをつかいたい」という項目に90%が「つかいたい」と回答 「「すいせい」と「かがく」のアツい話」 評価：「参加してみて「すいせい」や「かがく」に関する認識が変わったか」という項目に100%が「はい」と回答
6 課題		7 今後の方向性	
⑥のアンケートでは、「タイトルから想像していた内容と、実際の講演内容に少し違いを感じた」という意見が、複数の参加者から挙がった。講座の実施に際しては講演名や広報の方法について検討する。		☒ 継続 ☐ 見直し（ ☐ 改善・ ☐ 拡充・ ☐ 縮小） ☐ 休止・廃止 継続して事業を実施する。	
8 図書館協議会（2次）評価			

項目番号	3	担当	成人、地域・行政資料、レファレンス、ハンディキャップ
1 評価対象事業	基本方針	2	
市民の自主的な学びを支援するための講演会、講座、展示等を実施し、市民の調査、研究を支援します	方向	(2)	
	施策	②ア	
2 事業の背景と概要			
データベース普及のためのイベントを開催する。 幅広い年代を対象とした、図書館の資料や情報を活用するための講演会を開催する。			
4 事業の成果			
①子どものための地域を知る講演会「ロード・オブ・ザ・ニシトーキョー 「道」からつむぐ江戸物語」 日付・場所：令和7年8月17日（日）谷戸公民館視聴覚室 対象：小学4年生～高校生（大人の参加も可）、21人（内子ども8人）参加 アンケート： 「講演会に参加してどうだったか」の項目に85%が「よかった」と回答、「また参加してみたいと思ったか」の項目に90%が「はい」と回答。自由記述欄では「歴史を学ぶ楽しさや意味が伝わった」「地域の歴史がこんなに面白いんだということを実感できた」などの意見があった。 ②縁講演会「講談で学ぶ 西東京」 日付・場所：令和7年11月16日（日）谷戸公民館視聴覚室、45人参加 アンケート： 講演の内容について71%が「よかった」と回答。自由記述欄では「楽しく西東京の歴史について学ぶことが出来た」「町のことをもっと知りたくなった」「続けてほしい、また参加したい」などの意見があった。地域に関連する講演会を通じ、小学生から80代まで幅広い年齢層参加があり、地域の事柄に興味を持ったという意見も多かったことから、自主的な学びにつながる場になったと考える。 ③ハンディキャップサービス体験イベント「点字を体験してみよう！」 日付・場所：令和7年8月19日（火）谷戸図書館（同日2回） 対象：小学生（保護者）、1回目18人（内子ども12人）2回目16人（内子ども8人）参加 アンケート： 自由記述欄では、「1マスが小さくて難しかった」など初めて打つ点字が難しいという意見の一方で「楽しかったのでまたやりたい」「外国語や音階の点字も知りたい」など、参加した全ての方から学びの支援に繋がったと取れる感想が寄せられた。 ④ハンディキャップサービス講演会「盲導犬と歩くということ」 日付・場所：令和7年8月16日（土）中央図書館 対象：小学3年生以上、16人（内子ども9人）参加 アンケート： 講演の内容について93%が「よかった」「とてもよかった」と回答。自由記述欄では「盲導犬について、視覚障害者について初めて知ることばかりで参加できてよかった」「盲導犬になるための訓練には色々な人たちが関わっているのだと知ることができた」などの意見があった。ハンディキャップサービスのイベントを通じ、盲導犬や点字の存在は知っていても、どういうものか体験として知るきっかけになり、学びの幅を広げる機会となったと思われる。 ⑤データベース体験イベント「自分だけの誕生日新聞をつくろう！」 日付・場所：令和7年8月6日、13日、20日（水）中央図書館 対象：小学生、54人参加 アンケート： 「また調べものをするときに、図書館データベースをつかいたい」という項目に90%が「つかいたい」と回答。自由記述欄では「中学生になったときも調べものがあったら使いたい」「新しいことに興味を持てるようになった」などの意見があった。また、96%がこのイベントを通してデータベースを初めて利用しており、今後のデータベースを利用した学びのきっかけとなった。 ⑥一般向け講演会「“ふつうの体”はどうできている？ ～細胞と分子から見るからだのしくみ～」 日付・場所：令和7年9月13日（土）田無公民館視聴覚室、Zoomによるオンライン配信 対象：一般、会場参加 19人、オンライン参加 7人 アンケート： 講演の内容について73%が「よかった」「とてもよかった」と回答、「本講演をつうじて”体”についての理解が深まりましたか？」という項目に58%が「深まった」と回答。自由記述欄では「全く知らない生理学、何をしているのか少しでも知ることができてよかった」「写真や資料があったので、興味深く学べた。普段考えることもない生理学に触れられ、とても刺激を受けた」などの意見があった。			

項目番号	4	担当	広報
1 評価対象事業			基本方針 2
次期図書館管理システムの更新に合わせて、新たな図書館ホームページの構築に向けて取り組みます			方向 (4)
			施策 ①アイ
2 事業の背景と概要			
図書館サービス情報、イベント情報、施設情報など、図書館が発信する生涯学習情報について、図書館が持つ独自広報媒体である図書館ホームページのあり方を見直し、効果的な情報発信に努め、市民の学習ニーズに応える。			
3 事業の取組		4 事業の成果	
①プロポーザル方式で決定したシステム構築受注者と随時協議のもと新たな図書館ホームページの構築に取り組む。 ②図書館ホームページのリニューアルに伴う館内外の広報、図書館システム更新に関連して発生する利用者操作の変更等に関する案内・周知を行う。		①他施設のホームページ構成や情報発信の事例を参考にしながら図書館にとって効果的な発信方法を検討し、業者と連携しながらリニューアルにあたり、令和8年3月3日より公開した。 「施設情報・開館情報」「イベント情報」「資料検索情報」の配置や表現を見直し、利用者が直感的に把握できる構成とした。はじめての利用者でも理解しやすいように、情報整理と視認性の向上・アクセシビリティの向上を図った。 ②リニューアルについて、館内外チラシ、図書館だより101号、図書館ホームページなどで周知・広報を行った。	
5 自己評価			
①令和7年度事業評価	②評価指標	③特記事項	
S	S：予定通り実施（達成）できた A：予定通り実施（達成）したが課題もある B：実施状況に課題があり、改善が必要である C：取組を実施できなかった		
6 課題		7 今後の方向性	
令和8年度、公開から一定期間を経たのちに、利用者向けのアンケート調査によって詳細に検証予定である。		☒ 継続 ☐ 見直し（ ☒ 改善・ ☐ 拡充・ ☐ 縮小） ☐ 休止・廃止 引き続き利用者の意見を聞きながら、適宜修正・改良を図る。	
8 図書館協議会（2次）評価			

項目番号	5	担当	地域・行政資料サービス
1 評価対象事業		基本方針	3
収集した資料を形態に合わせ、適切に装備し配架します。 市民の活用につながるように、新たな資料について随時情報発信します		方向	(1)
		施策	①ア
2 事業の背景と概要			
書籍の形態ではない資料を適切に提供出来るように、印刷や装備を行う。 また、新しく受け入れた資料が有効的に活用されるように、図書館内やホームページ上での情報発信に努める。			
3 事業の取組		4 事業の成果	
①市民より寄贈された西東京市の歴史を題材とした紙芝居を、保存並びに提供のため原本から印刷、装備する。提供可能な形態に整えた後、市内の図書館や学校などで西東京市の歴史を伝えるツールの一つとして活用できるように図書館ホームページなどで情報発信に努める。 ②新たに受け入れた資料を分かりやすくするために、地域・行政資料の新刊のみを集めた棚を整備し利用促進へつなげる。		①西東京市の歴史的イベント（御門訴事件）を題材に、1976年度当時の保谷小学校児童らが作成した紙芝居（市民からの寄贈資料）について、原本保存のために複製印刷を行い、市内3館（中央図書館、柳沢図書館、ひばりが丘図書館）に貸出用資料として設置した。各図書館では貸出開始時、当該事件に関連する書籍とともに紙芝居の展示を行った。「図書館だより」（100号）並びに図書館ホームページでは、御門訴事件を紹介する記事を掲載し情報発信を行うとともに、寄贈紙芝居の所蔵公開に関する周知も図った。図書館ホームページのアクセス数は686回となっている（令和8年4月現在）。 ②地域・行政資料として新たに受入れた資料のみを配架する新刊棚を、従来のスペースから拡大整理し、資料の面出し展示を開始した。更に入れ替え制の新刊紹介POPも作成し、資料の内容やおすすめの理由、西東京市との関連情報等の情報提供にも努めた。	
5 自己評価			
①令和7年度事業評価	②評価指標	③特記事項	
A	S：予定通り実施（達成）できた A：予定通り実施（達成）したが課題もある B：実施状況に課題があり、改善が必要である C：取組を実施できなかった	新刊資料の情報発信は予定通り達成できたが、複製した寄贈紙芝居の利活用促進には課題があった。	
6 課題		7 今後の方向性	
①複製版の作製及び貸出開始はできたものの、より多くの市民への貸出や、学校等での利活用には至っていない状況である。 所蔵情報をより広く継続的に周知するとともに、紙芝居をより利用されやすい形態へメディア変換していくことが課題である。		☒継続 ☐見直し（☐改善・☐拡充・☐縮小）☐休止・廃止 寄贈紙芝居の動画作成に取り組む。 完成した動画は図書館ホームページ等に掲載し、市民や学校での利活用を図る。	
8 図書館協議会（2次）評価			

項目番号	6	担当	児童
1 評価対象事業			基本方針 4
図書館利用のきっかけづくりとなる一日図書館員やバックヤードツアー等、体験型のイベントを実施します			方向 (2)
			施策 ②ア
2 事業の背景と概要			
一日図書館員では、市内各図書館で返却や装備などの仕事を児童・生徒が体験することで図書館の仕組みを児童・生徒が学習するとともに、体験を通じて図書館や読書への興味・関心を高め図書館利用の促進を図る。 バックヤードツアーでは、子どもたちが普段目にするのではない書庫や資料を案内しながら、図書館の裏側や仕事を見学することで、図書館に興味及び関心を持たせ利用の促進を図る。			
3 事業の取組		4 事業の成果	
①一日図書館員 実施日：令和7年7月23日、24日、25日、29日、31日 実施時間：午後1時30分から4時30分 場所・対象と募集人数： 小学4～6年生の募集 全館（各6人） 小学5年生～中学生の募集 中央図書館、保谷駅前図書館、柳沢図書館、ひばりが丘図書館（各6人） ②バックヤードツアー 実施日：令和7年12月26日 実施時間：午前11時から正午、午後2時から3時 対象：小学1～3年生の親子 場所・募集人数 柳沢図書館、ひばりが丘図書館（各親子4組）		①一日図書館員 内容：返却、配架、装備など図書館の仕事体験 参加：中央図書館（12人）、保谷駅前図書館（12人）、芝久保図書館（5人）、谷戸図書館（6人）、柳沢図書館（11人）、ひばりが丘図書館（13人） アンケート：満足度を★の数5つで確認したところ、9割の参加者が★5つであった。 ②バックヤードツアー 内容：書架（書庫を含む）の見学、HS資料の紹介、しおり作り体験 参加：柳沢図書館（3組6人参加、2組欠席）、ひばりが丘図書館（7組14人参加） アンケート：満足度を★の数5つで確認したところ、9割の参加者が★5つであった。	
5 自己評価			
①令和7年度事業評価	②評価指標	③-1 令和7年度実績値	③-2 令和6年度実績値
S	①参加者にアンケートを実施、満足度を確認。 S：95%以上 A：90%以上95%未満 B：80%以上90%未満 C：80%未満 ②参加者にアンケートを実施、満足度を確認。 S：95%以上 A：90%以上95%未満 B：80%以上90%未満 C：80%未満	・一日図書館員 小学生54名・中学生5名 ・バックヤードツアー 小学1～3年親子 柳沢6名・ひばり14名	・一日図書館員 小学生59名・中学生6名 ・バックヤードツアー 小学1～3年親子 中央12名・ひばり23名
6 課題		7 今後の方向性	
バックヤードツアーと一日図書館員は業務の親和性があり、一貫した内容を体験してもらえるように、事業の実施を図りたい。		☒ 継続 ☐ 見直し（ ☐ 改善・ ☐ 拡充・ ☐ 縮小） ☐ 休止・廃止 継続して事業を実施する。	
8 図書館協議会（2次）評価			

項目番号	7	担当	ハンディキャップ、電子図書館、地域・行政資料、調べる学習、ヤングアダルト
1 評価対象事業		基本方針	5
市内小・中学校において、社会教育課（現：地域学習推進課）、公民館及び図書館が共同して、「まちなか先生」を実施します		方向	(2)
		施策	②ア
2 事業の背景と概要			
「まちなか先生（学校出前講座）」事業では、地域学習推進課、公民館、図書館の三課が連携し、地域全体で子ども達の成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指して、学校に講師が出張して授業を行う。図書館では、所蔵資料や多岐にわたる図書館サービスの内容を紹介し、図書館を利用する機会を創出できるよう取り組む。			
3 事業の取組		4 事業の成果	
①「ハンディキャップサービスってなあに？」（ハンディキャップサービス） ②「西東京市子ども電子図書館をつかいこなそう！」（電子図書館） ③「西東京市に伝わるおはなしを大型紙芝居と「西東京市図書館/西東京市デジタルアーカイブ」で鑑賞してみよう」（地域・行政資料） ④「図書館を使った調べる学習コンクールに挑戦しよう！」（調べる学習） ⑤「『図書館』×『仕事』～本で結ぶ「WORK」とわたし～」（ヤングアダルト） ⑥「マルチメディアデジターを使ってみよう」（ハンディキャップ）		R7年度6～12月に延べ15校で実施した。 ①けやき小学校4年（4クラス）、保谷第一小学校4年（3クラス）、芝久保小学校4年（3クラス）、住吉小学校3年（3クラス） ②柳沢小学校3年（2クラス）、保谷第一小学校3年（4クラス）、碧山小学校3年（3クラス）、東小学校3年（3クラス） ③柳沢小学校2年（2クラス）、東小学校2年（3クラス） ④芝久保小学校5年（3クラス）、本町小学校5年（2クラス）・6年（3クラス）、東小学校5年（3クラス） ⑤保谷中学校2年（4クラス） ⑥東小学校特別支援学級3・4年	
5 自己評価			
①令和7年度事業評価	②評価指標	③特記事項	
S	S：予定通り実施（達成）できた A：予定通り実施（達成）したが課題もある B：実施状況に課題があり、改善が必要である C：取組を実施できなかった	R4年度：延べ8校実施 R5年度：延べ9校実施 R6年度：延べ11校実施	
6 課題		7 今後の方向性	
年齢が様々な子どもへ図書館の様々な資料やサービスについて知ってもらう方法の手段の1つだが、本事業を継続する中で、対象児童にどのようなアプローチが有効か検討していくことは必要である。		☒ 継続 ☐ 見直し（ ☐ 改善・ ☐ 拡充・ ☐ 縮小） ☐ 休止・廃止 継続して事業を実施する。	
8 図書館協議会（2次）評価			

項目番号	8	担当	コンピュータ
1 評価対象事業			基本方針 6
次期図書館管理システムの更新に取り組みます			方向 (2)
			施策 ②イ
2 事業の背景と概要			
図書館管理システムの更新にあたり、安心かつ安全な運用が行える設計及び構築を行うとともに、現行のシステムからの技術及び機能向上が図られるシステムへ更改する。			
3 事業の取組		4 事業の成果	
①図書館管理システムを更改する。 ②図書館ホームページの改修を行い、利用者の利便性を向上する。 ③蔵書分析ツールを導入する。		①システムの更新として、図書館管理システムのサーバ機器類の一部を情報システム課管轄の機器に搭載することで、セキュリティを強化した。 また、図書館ホームページサーバを外部データセンタへ移設することで、庁舎停電期間中にも図書館ホームページが稼働するよう切り分けを行い、利便性の向上を図った。 ②図書館管理システムの更新により、図書館ホームページのリニューアルを実施し、スマートフォンやタブレットなど、小型のデバイスで閲覧した際の視認性の向上を図った。 ③管理ツールとして蔵書分析ツールを導入し、蔵書構築のための動向調査の円滑化を図った。	
5 自己評価			
①令和7年度事業評価	②評価指標	③特記事項	
S	S：予定通り実施（達成）できた A：予定通り実施（達成）したが課題もある B：実施状況に課題があり、改善が必要である C：取組を実施できなかった		
6 課題		7 今後の方向性	
今後も、2ヶ月に1度の図書館管理システム保守定例会議をもって、軽微なシステム修正・更改を行い、随時利便性の向上を図る。		☒継続 ☐見直し（☐改善・☐拡充・☐縮小）☐休止・廃止 図書館システムを安定的に運用する。	
8 図書館協議会（2次）評価			